

製品名: Bcl-w ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07514**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	BCL2L2
別名	BCL2L2; BCLW; KIAA0271; Bcl-2-like protein 2; Bcl2-L-2; Apoptosis regulator Bcl-W
遺伝子 ID	599.0
SwissProt ID	Q92843
免疫原	抗血清はヒト BCLW 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

背景

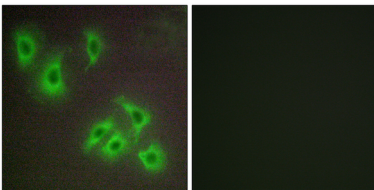
この遺伝子は、BCL-2 タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。このファミリーのタンパク質はヘテロまたはホモ二量体を形成し、抗アポトーシスおよびプロアポトーシスの調節因子として作用します。細胞内でのこの遺伝子の発現は、細胞傷害性条

件下での細胞アポトーシスの減少に寄与することが示されている。マウスにおける関連遺伝子の研究では、NGF および BDNF 依存性ニューロンの生存における役割が示唆されました。マウス遺伝子の変異およびノックアウト研究では、成体精子形成における重要な役割が実証されました。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子と隣接する下流の PABPN1 (ポリ(A)結合タンパク質、核1) 遺伝子との間にも、リードスルー転写が存在します。[RefSeq 提供、2010年12月]、ドメイン: BH1 および BH2 モチーフは疎水性の溝を形成し、これがいくつかのプロアポトーシスタンパク質の BH3 ドメインのドッキング部位として機能します。BCL2L2 の C 末端残基は BH3 結合溝に折り畳まれ、リガンドアクセスを制御することで生存促進活性を調節する。BH3 ドメイン含有タンパク質が結合すると、C 末端が置換され、膜への挿入が可能になり、BCL2L2 の生存促進活性が中和される。ドメイン: BH4 モチーフは抗アポトーシス機能に関与していると考えられる。機能: 細胞生存を促進する。デキサメタゾン誘導性アポトーシスを阻害する。BAX の細胞死促進活性を抑制することで、有糸分裂後のセルトリ細胞の生存を促進する。類似性: Bcl-2 ファミリーに属する。細胞内局在: 健常細胞ではミトコンドリア膜に緩く結合している。アポトーシスの過程では膜にしっかりと結合する。組織特異性: 幅広い組織で (タンパク質レベルで) 発現しており、脳、脊髄、精巣、膵臓、心臓、脾臓、乳腺で最も高いレベルで発現している。胸腺、卵巣、小腸では中程度のレベルが認められる。唾液腺、筋肉、肝臓では検出されない。骨髄系、線維芽細胞、上皮細胞由来の細胞株でも発現している。ほとんどのリンパ系細胞株では検出されない。

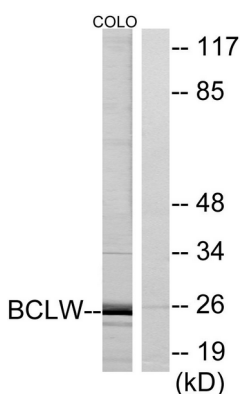
研究分野

-

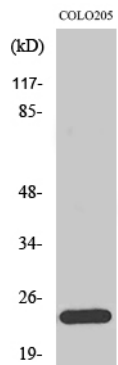
画像データ



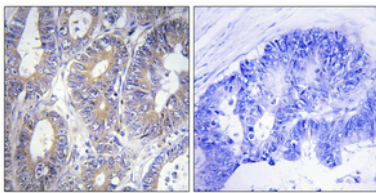
BCLW 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



COLO 細胞ライセートの BCLW 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



1: 2000 希釈の Bcl-w ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。